

## メンバーから一言

# A グループ

### 魚住 俊文さん

今回の住民会議に参加させていただき私が感じたことは、参加者の皆さんがその道のいわば功労者で、様々な草の根運動がこれまでも続いていることです。その中の一輪の花がこの住民会議という場で結実したような気がします。今後もみんなで“長久手”の未来を考えていきましょう。有難うございました。



### 羽瀨 伊平さん

昨春から香流川の清掃をしている。都市化が進む中で川の自然、生態系は壊れ瀕死の状態にある。これをいかに再生し保全保護すればいいか、今回の住民会議で強く考えさせられた。長久手は「自然との共生」に取り組む「環境モデル」としての条件を十分に備えている。これからの10年に期待したい。



### 岩瀬 信廣さん

今年開催された洞爺湖サミットでは、地球環境・食糧危機がテーマとなった。個人的には、住民会議でも「環境・食料（農）」を重点に議論されたと願望したが…。今後、この住民会議の議論を活かすには、行政と住民の「協働」が不可欠だと思う。その道が着実に開かれるか注目したい。



### 清野 順市さん

Aグループは「万博の理念を継承するまち」をテーマに田園バレー事業の実績を活かした「川と農の再生」、特に長久手東部地域に点在する休耕田・畑の再生について討議された。また、香流川の整備についても話し合われた。万博理念の継承から長久手小に保管されている古い農機具を一般開放に向けて検討してほしい。



### 松平 俊慶さん

未経験者がいても野菜作りが楽しめる観光農園的な施設があれば、多くの人達が気軽に参加でき、結果、里山保全・地産地消・低い自給率の自覚にもつながるのではないかとこの気持ちからこの会議に参加できたことは大変有意義でした。今後、若い人達の意見を多く取り入れ、多くの人達が楽しめる環境作りを期待しています。



## メンバーから一言

---

### 松原 清美さん

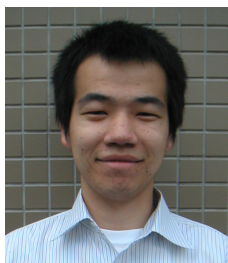
検討中のマスタープランを実現するためには、1人当たりのCO<sub>2</sub>発生量の現状と目標値や実績値、具体的改善例の効果などのほか、ごみ削減、農業再生も同様に把握し、それらと町の施策をリンクすることが必要です。この達成には、革新プロジェクトの公募、実施支援、個々の家庭での改善にも手厚い支援が必要だと思います。



## Bグループ

### 石原 誠さん

この住民会議に参加して、こんなに熱い議論がされるとは思っていませんでした。参加された方々に共通しているのは（当然私を含め）長久手町が好きで、そしてさらに長久手町を活性化させたいという思いを持っているということです。この住民会議が少しでも長久手町の未来に役立つことを祈るばかりです。



### 浅岡 弘子さん

休みがちの参加でしたが、皆様の意見に感心したり、納得したりと、いろいろお勉強させていただきました。



より良い「まちづくり」という目的の中で、あまりお役に立てなかったのではと思いますが、これからも一住民としてこの事に大いに関心を持ちたいと思っております。

### 瀬川 典子さん

子どもや高齢者と関わりの多い立場で活動している現在、子どもの育成環境や高齢者の生活環境の変化に痛感させられます。核家族で共働き夫婦が多い中、子どもが下校後面倒を見られる場所が少なく、学童保育所やトワイライトを充実し、安心安全で犯罪のない明るいまちづくりに、住民と行政の協働組織で推進していきたい。



## メンバーから一言

### 丹澤 啓吉さん

全員が長久手町を真に愛していることを実感しました。まちの未来について自由奔放な発言が飛び交い、楽しいひとときでした。いっそ町議会にも裁判員制度のような一般参加を取り入れれば町の活性化はもっと進むと思います。そのためには行政の迅速かつ正確な情報公開が望まれます。



### 樋口 ひろみさん

個性溢れるメンバーの方たちはもちろん、職員の方たちの町づくりにかける熱い思いに触れ、毎回多大なる刺激をいただきました！



長久手はコンパクトな町ながら、誇れるものがたくさんあるということ、また何より、熱くて面白い人材の宝庫だということを発見し、あらためていい町だなと思いました。

### 藤森 幹人さん

環境の世紀に、リニモを軸とした住みよい長久手に変わることが大切と強く思います。それが同時に、高齢になっても“花のある暮らし”ができるまちづくりにつながるのです。この住民サミットは短い時間でしたが、素晴らしい町民の方たちと話をした成果です。やはり、長久手の宝は“人材”です。



### 松原 勝征さん

住民サミットに参加して、どのメンバーもこの長久手町を強い心で愛し、活発に議論していたと一番強く感じました。私はこの地に生まれ育った1人として改めて思い知らされた気がしました。今後、この会議の提案にもある「誰もが住みたいまち」と思えるよう協力したいと思います。



### 伊藤 弘繁さん

名古屋東部に位置し、緑も自然も残るコンパクトシティ、それにも増して文化施設にも恵まれている。生産（農業、工業）の場でもない本町にとって文化度の高いアートシティを目指して住民全員参加型の住んで良い街を目指すべきでしょう。今回メンバーのみなさんの大変意欲的な発想を頼もしく思いました。



C グループ

## メンバーから一言

### 梅村 智子さん

長久手の将来ビジョンの各グループからの発表、意見・発言がとても私にとってビタミンのようで、とにかく会議中の討論は最高に楽しかったです。長久手町がこの先、自然と人にやさしく、そこから文化の発展を望むポリシーは、メンバーの皆さんと一緒になんだろうと思うと、心は Happy です。ありがとうございました。



### 近藤 均さん

「長久手を愛知県のバチカン市国のような町にしたい」 本会議の初回の会合の自己紹介の場で、ある住民から出た意見は大変興味深いものでした。その後、会議を重ねるごとにまちづくりの議論も深まり、「ローマ法王を呼んだらどうか」という意見には、その発想力に圧倒されました。人生の大先輩に敬意を表します。



### 清水 恒雄さん

芸術、文化の面での的を絞れば、非常にレベルの高い素地が住民の中にあります。専門大学、芸術家、研究者を再認知し、輪を広げる活動の場を早急に創生したい。既存の活動はより発展的に、また、わが町に根付かせ得るユニークなイベント等を、新たに継続的に開催し育てるべきです。私もこの分野で積極的に携わりたいと思います。



### 鶴 勲さん

住民会議で町のPR強化を提言した理由の1つは、例えば広辞苑第6版の「長久手」の項に「名古屋市の東方に接する町」とあり、次いで「1584年、羽柴秀吉の軍が徳川家康の軍と戦って敗れた地」とある。愛・地球博の主会場の説明はない。こうした点から町のPRを提言した。PRを強化すべきだ。



### 梅田 小夜さん

“住民が住みたい町に”が課題の住民サミット。はじめは少々不安もありましたが、このサミットではメンバー全員による実に活発な討議がされ、大きな成果が出せたのではと思います。このように町民と行政が一体となってまちづくりをする長久手町は素晴らしいし、将来が楽しみです。

